

感染症学

ナンバリング M4-S1-D30

責任者・コーディネーター	臨床検査医学・感染症学講座 仲村 究 教授		
担当講座・学科（分野）	臨床検査医学・感染症学講座、衛生学公衆衛生学講座、消化器内科分野、呼吸器内科分野、小児科学講座		
担当教員	仲村 究 教授、丹野 高三 教授、梁井 俊一 准教授、長島 広相 特任准教授、外館 玄一朗 特任准教授、日比谷 健司 助教、遠藤 史郎 非常勤講師、金光 敬二 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 11コマ 22.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

感染症は全身臓器に関連し、学生が将来的にいずれの診療科に進んでも、基本的な理解が求められる。各講義を通じ、臨床的な感染症に関する知識を身に着けることを期待する。

・教育成果（アウトカム）

各教科で学んできた感染症に関連する知識を横断的に整理することで、感染症に関する重要なポイントについて説明できるようになる。
(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,7)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	病原性微生物の種類や特徴を説明できる。
2	基本的な抗菌薬の種類や特徴を説明できる。
3	各感染性疾患の特徴（症状、病態、検査、基本的治療など）の説明ができる。
4	感染症に関連する医療安全の説明ができる。
5	感染症に関連する法規や法令の説明ができる。

・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはWebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/15(金)	2	臨床検査医学・感染症学講座	仲村 究 教授	感染症診療の基本	1,2,3	<p>【事前学修】 βラクタム薬、グラム染色、血液培養の意義について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	5/22(金)	1	臨床検査医学・感染症学講座	仲村 究 教授	HIV感染症、中枢神経感染症	1,2,3	<p>【事前学修】 日和見感染症を来す疾患群について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	5/22(金)	5	呼吸器内科分野	長島 広相 特任准教授	呼吸器系の感染症	1,2,3	<p>【事前学修】 代表的な呼吸器感染症、特に肺炎球菌性肺炎、新型コロナウイルス感染症について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>

講義	5/28(木)	4	小児科学講座	外館 玄一朗 特 任准教授	小児感染症学①	1,2,3	<p>【事前学修】 代表的な小児科感染症、特にワクチンで予防可能な小児でよくみられる感染症について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	5/28(木)	5	小児科学講座	外館 玄一朗 特 任准教授	小児感染症学②	1,2,3	<p>【事前学修】 代表的な小児科感染症、特にワクチンで予防可能な小児でよくみられる感染症について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	5/29(金)	1	臨床検査医学・感染症学講座	仲村 究 教授	真菌感染症、抗酸菌感染症	1,2,3	<p>【事前学修】 深在性真菌症、および結核について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	6/4(木)	4	消化器内科分野	梁井 俊一 准教授	消化器の感染症	1,2,3	<p>【事前学修】 代表的な消化管感染症、特に感染性胃腸炎について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>

講義	6/5(金)	5	臨床検査医学・感染症学講座	遠藤 史郎 非常勤講師	耐性菌の種類、耐性機序	1,2,4,5	<p>【事前学修】 日常的に病院内で検出される様々な薬剤耐性菌について学ぶ。ESBL産生菌、カルバペネム耐性菌、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクターなどについて事前に自ら調べてみる。所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	6/18(木)	3	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授	感染症に関連する法規や法令	4,5	<p>【事前学修】 感染症法を中心とする法規、法令について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
講義	6/19(金)	5	臨床検査医学・感染症学講座	金光 敬二 非常勤講師	院内感染症、アウトブレイクの制御、周術期感染症	1,4,5	<p>【事前学修】 院内感染を防止するためにはどうすべきか、報道されるアウトブレイク事例などに目を通し考察しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>

講義	6/25(木)	3	臨床検査医学・感染症学講座	日比谷 健司 助教	寄生虫感染症および人獣共通感染症	1,2,3	<p>【事前学修】 代表的な寄生虫感染症について参考書などの該当部位に目を通しておくこと 所要時間：60分以上</p> <p>【事後学修】 講義の内容を復習し、A4 1～2枚程度にまとめて、それを次回講義までにポートフォリオに提出する 所要時間：80分以上</p> <p>【ICT】WebClassに講義資料をアップする。講義後にWebClassで小テストを行い、解答についてのフィードバックを確認し自己学習する。</p>
----	---------	---	---------------	-----------	------------------	-------	---

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	レジデントのための感染症診療マニュアル 第4版	青木 眞	医学書院	2020
参考書	標準微生物学 第15版	神谷茂	医学書院	2024
参考書	標準小児科学 第15版	原 寿郎	医学書院	2022
参考書	目で見る感染症	原永修作/藤田次郎	羊土社	2015
参考書	感染症診療ゴールデンハンドブック改訂第2版	椎木創一/仲松正司	羊土社	2018
参考書	新型コロナウイルス感染症診療の手引き（第10.1版）	診療の手引き編集委員会	厚生労働省	2024

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

講義内容について、講義終了後に小テストを学生自身でWebclassを用いて行い、その理解度を把握し、解答をフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～5	1～5				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

Webシラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

* 講義資料はWebClassで配信する。

* 事前、事後学習が義務付けられており、事後学習内容についてもWebClassに提出する。

* 提出する事後学習内容について、講義時に使用したノート等に追記を行い、自己で講義内容を確認したことが分かれば、それを提出してよい。ただし、枚数はA4 1～3枚程度に要約し、講義スライドをそのまま全て提出したものは不可とするため留意すること。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

参考書、講義室、図書館、PC、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	デスクトップパソコンElite Desk 一式	1	講義・試験の資料作成
講義	ガラス両開き保管庫一式	1	配布資料、試験、成績の保存
講義	デジタルフルカラー複合機 一式	1	配布資料の作成、コピー
講義	デスクトップパソコン Pavilion Desktop595-p	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン	1	講義資料作成
講義	デジタルカメラ 一式	1	講義資料作成
講義	A4カラーレーザー複合機	1	講義資料作成